

歴史まちづくり

アナ： 「市長が語る 2018 三島」第14回の今日は、「歴史まちづくり」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 今回のテーマが「歴史」ということで、まずはこの度、文化庁での「日本遺産」の認定、大変おめでとうございます。この「日本遺産」とはどのようなものでしょうか。

市長： ありがとうございます。「日本遺産」ですが、地域の歴史的魅力や文化・伝統が物語るストーリーそのものを文化庁が認定するものです。そのストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財を、地域が主体となって整備・活用して、国内だけでなく海外へも発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

わかりやすく例えますと『世界遺産の日本版』ということになります。今回の認定には全国から76件の申請があり、この中から「箱根八里」が選ばれ、5月24日に静岡県内で初めての認定書を頂いたところです。

アナ： 県内初ということで、今回、文化庁より認定頂いた内容はどのようなものでしょうか。

市長： 今回の認定は、函南町、そして神奈川県の小田原市、箱根町と、県をまたぐ取り組みとしても評価をされました。メインテーマは

『旅人たちの^{あしあと}足跡残る悠久の^{いしだたみみち}石畳道一箱根八里で^{たど}辿る遥かな江戸の旅路』

でありまして、『江戸の旅路』として、旧東海道「箱根八里」の石畳や宿場町、一里塚など、江戸時代の旅人が目にしたであろう情景をテーマとしたストーリー性をご評価頂いたものです。このような街道沿いの自治体が連携して、景観ポイントや回遊整備に取り組み、「街道の歩き旅をブランド化」していくことにより、地域の活性化をより進めてまいりたいと考えております。

アナ： なるほど。歴史のロマンも感じさせる素敵な取り組みに期待したいところです。さて、以前にやはり「静岡県内初の認定」となりました「歴史まちづくり計画」による「歴史まちづくり」は、現在どのように取り組みが進められているのでしょうか。

市長： 『歴史まちづくり計画』は、この日本遺産も意識する中で、三島市が2年前に策定したものです。歴史的建造物とお祭り等の伝統文化が一体となって創られてきた、まち並みや文化財等の資源について、国土交通省から県内で初めて認定をいただいたものでありまして、地域活性化の資源としても活用していくための、

戦略をまとめた計画となっています。

計画初年度となる昨年度は、計画に位置付けられている洋風の外観を持った看板建築をはじめとする歴史的な建造物 13 件の指定を行いました。また、認定都市が受けることができる国の支援制度を活用する中で、スマホをかざすと多言語表示ができインバウンドにも対応した案内看板へのリニューアルを、市内 90 か所で行いました。

さらに、歴史的まちなみを形成する赤橋・御殿川・鎌倉古道地区を「重点整備地区」に、三嶋大社周辺地区を屋外広告物の美観形成に向けた「誘導整備地区」にそれぞれ指定して、市民や事業者の皆様の協力を頂きながら、歴史的な風情を醸し出す市街地景観を作っていくための取組みを進めているところです。

アナ： こういった取組みによりどのような効果が期待できるのでしょうか。

市長： 素晴らしいことに、三島は歴史的な建造物や伝統的な人々の活動がしっかりと引き継がれてきております。これらを維持・保全した上で、積極的に整備を進め、その活用面に光を当てることにより、歴史的な風情を味わいながら回遊できる新たな観光資源とすることができます。

これらの観光スポットを結ぶ通りやまち並みについても、せせらぎや豊かな緑を生かした整備を行い、案内看板を設置することで、駅を降りて、まちなかで歴史と文化を体験できる快適なまち歩きを楽しんでいただくことができます。

アナ： 先ほどの「日本遺産」と合わせて、「歴史まちづくり計画」も進めていくことで地域や市内全体の活性化が期待できますね。今後の予定としてはどのようなようになっているのでしょうか。

市長： 今年度の事業は、歴史的な建造物として指定した民間の看板建築の保全・整備の助成などを計画的に行っていきます。また、愛知・三重・岐阜・静岡の東海 4 県の中で「歴史まちづくり計画」の認定を受けた自治体の市長や町長、国土交通省の方などが集まって「歴史まちづくり」についての意見交換などを行う「第 6 回中部歴史まちづくりサミット」を、本年 10 月 16 日に三島市において開催することとなっており、これについても静岡県内で初めての開催となります。

アナ： 「歴史まちづくり」に関する話題は「県内初」が多いのですね。先進的な取組みを進めて地域やまちの「活性化」につなげていただけると期待しています。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。